

新潟県立看護大学研修会：査読プロセスで一皮むける！ちょっとしたヒント、教えます 2015年3月2日(月)

# 査読を活用するためのポイント —編集委員会・査読者の経験から—

共立女子大学看護学部 北川公子

# 今日の話題

1. 査読の役割と、査読者の立場
2. 査読で多い指摘事項
3. 採用される論文・不採用になる論文の特徴
4. 論文投稿に際しての留意事項
5. 査読プロセスにおけるルールやマナー
6. 査読結果への対応のポイント
7. まとめ

# 1. 査読の役割と、査読者の立場

- 第三者が読むことによって

- ① 研究・論文の質の向上(内容)

- ② 読みやすい(分かりやすい)文章(表現)

} 論文の価値の向上

- 査読者の立ち位置

- ① “読める人”として学会に承認された(名誉)

- ② 投稿者・論文へのリスペクト

- ③ あなたの論文の意向に添って読む(私の論文ではない)

## 2. 査読で多い指摘事項

### ①研究目的～方法(根幹に関わること)

#### [目的]

- ・目的の明確化を:「～以上より、A市における認知症患者の実態を調査したので、ここに報告する。」
- ・テーマも含め、中心となる用語・概念が明確でない(不安定)。  
ex. 「介護負担」or「介護負担感」→用意すべき変数が異なる

#### [方法]

- ・目的に見合ったデザイン、対象、変数が設定されていない

## 2. 査読で多い指摘事項

### ②結果に関すること

#### 〔量的研究〕

- ・基礎表がない、Nがわからない、数があわない、Nが小さいのに無理な統計を用いている、方法で提示されていない変数が登場する
- ・「結果は表1のとおりである。」という記述のみ

#### 〔質的研究〕

- ・表の題名が「表1 サブカテゴリーとカテゴリー」「図2 概念図」
- ・抽象化のプロセスの検討不足

## 2. 査読で多い指摘事項

### ③倫理に関すること

- ・倫理委員会の承認を得て行った、だけでは不足  
対象者(参加者)、研究方法にみあった、最低限の記述を。  
例:インタビューの場合、対象が学生や未成年の場合
- ・「研究の趣旨を説明し、同意を得た」  
→「これこれについて説明し、こういう方法で同意を得た。」

※重複投稿疑惑・まれ、ですが。

## 2. 査読で多い指摘事項

### ④文章構成・表現に関すること

・「方法」「結果」「考察」の下位の見出しがない→何について主張している文章の塊なのかがわかりにくい。

#### ・難解≠高級な論文

難解＝意味不明(主語と述語の不一致、長文、文章と文章・段落と段落のつながりが悪い)→赤ペン先生はできないので、指摘しにくい。

・用語のばらつき・家族構成、世帯構成、家族形態・使い分け？

・ケアレスミス・誤字脱字、誤変換

### 3. 採用される論文・不採用になる論文の特徴

#### 〔採用される論文の特徴〕

- ・初回査読で、「大幅な修正が必要」という判定を受けない

※投稿の段階での完成度は重要！

※投稿前に、共同研究者以外の人にも読んでもらおう

- ・「致命傷」がない

※「研究計画段階からの問題」がないこと



### 3. 採用される論文・不採用になる論文の特徴

#### 〔不採用になる論文の特徴〕

- 雑誌(学会)の趣旨(及び水準)との**不整合**→投稿先の吟味は重要
- 明らかにしたい“何か”が明確でない
- 研究計画段階(=**研究方法上**)での不備
  - a. 目的に合致した対象者や変数が選定されている？
  - b. 目的に合致した研究方法・分析方法が採用されている？
  - c. 適切な倫理的配慮がなされている？

# 4. 論文投稿に際しての留意事項

## (1) 原稿締切日の有無、投稿方法の確認

- 一年中、原稿を受け付けているのか。(月刊、隔月)
- 掲載予定号に対して、投稿締切が設定されているか。  
→ 何歳までに、どの程度の研究業績を作るか、という人生設計
- オンライン投稿か(画面確認)、郵送(必着か)、その他(メール添付とか)による投稿か。

# 4. 論文投稿に際しての留意事項

## (2) 投稿規程の確認

- ・投稿者・共著者の資格
- ・雑誌の目的

※各論文種類に対して、どのような水準を求めているのか

→ここでの検討不足が、後々の不幸を招きかねない。

「規程」だけでつかみかねる場合は、現委員会組織が出した最近のバックナンバーで水準を把握する。

## 4. 論文投稿に際しての留意事項

(3)原稿執筆成要領(投稿規程に含まれている場合もある)

※これは、「守る」ためにあります

軽んじられやすいもの・・・**規定文字数と文献リストの書き方**  
規定文字数の著しい超過のため、受理されない場合もある。

**査読者の心証** 「投稿規程を読んでいない」  
＝「十分に検討(推敲)されていない論文」

**査読者を、執筆要領のチェッカーにしてはいけない。**

# 4. 論文投稿に際しての留意事項

## (4) 投稿チェックリスト

※チェックされていても、守られていないことはよくある。  
特にオンライン投稿→次の画面に進めないのも

**査読者に、本来の査読に集中してもらうためにも、  
体裁を整える(投稿規程を守る)ことは、最低のマナーです。**

# 4. 論文投稿に際しての留意事項

## (5) 査読プロセス

- 何回、読んでくれるか
- 判定結果の組み合わせによる判定
- 判定が割れたとき、第三査読をたてるか

# 5. 査読プロセスにおけるルールやマナー

- **修正期間に間に合わないと思ったら**

まず、締切延長について、編集委員会に相談  
再査読で「掲載不可」より、掲載号が遅れても採用を目指す  
フェイドアウトでの取下げは、委員会としては迷惑です。

- **初回査読で取り下げる決断も「あり」**

コメントに対する検討を十分に行い、再投稿を目指す  
→ただし、立ち直るのにエネルギーが要ります(心が折れる)  
「河岸を変える」という決断も、「あり」

## 6. 査読結果への対応のポイント

### ① 査読コメントへの立ち向かい方

人格を否定しているわけではない、と3回、唱えてから読む。

メジャーポイントを見つけ、理解し、どうすればクリアできるのかを考える。

二者のコメントの中で、何をクリアしなければ採用されないかを総括してくれる編集委員会もある。

VS

二者の意見が違っていても、何の調整もなく、査読結果が返される場合もある。



# 6. 査読結果への対応のポイント

## ① 査読コメントへの立ち向かい方

### ・初回査読で「掲載不可」の判定だったら

致命的な問題がある→今あるデータに対して無理のない投稿先、論文種類、テーマを再設定する

倫理的な問題がある→？！

雑誌の趣旨にそぐわない→投稿先を変える

### ・再査読で「掲載不可」の判定だったら

心的ダメージが大きいため、これは避けたい(編集も出したくない)

そのために、「修正期間延長願」や「取下げ」も一つの選択

※不可コメントに、「再投稿の推奨」がない場合は、投稿先を変えたほうがいいのかもわからない。

# 6. 査読結果への対応のポイント

## ① 査読コメントへの立ち向かい方

- ・初回査読で「大幅修正」の判定だったら

メジャーポイントの特定

査読者間で意見の相違がある場合、自分自身で方針を熟考

大幅修正に伴って損なわれた一貫性の再構築も、投稿者の責務

- ・再査読で「大幅修正」の判定だったら

初回投稿を水準が低いと、こうなる(再査読が実質の初回査読)

修正不足(メジャーポイントの吟味不足、一貫性の欠如)

このまま査読プロセスを続けるかどうか、決断

# 6. 査読結果への対応のポイント

## ② 査読コメントへの返信の作成

### [悪い例]

- コメント1、「直しました」。コメント2、「直しました」、という羅列
- 指摘された点のみを直して、前後の文脈、全体の一貫性を省みない  
(言われたことは直したんだから、何か文句ある? という負のオーラ)

### [よい例]

- 編集委員会の書式に従う。対照表など
- 謝意の表明
- 何を、どのように直したのか
- 指摘事項に対する修正に伴い、新たにここも直しました。
- こういう意図で、ここは直しませんでした。

## 6. 査読結果への対応のポイント

### ③査読コメントに対して、意見の相違がある場合

査読は一方向ではなく、双方向のコミュニケーションのプロセス

一方的に全て承るのではなく、納得いかない場合はその旨を返信

近年の研究方法の多様化・複雑化→査読者の専門領域では十分に対応できないこともある

統計、質的研究などに対応する査読サドバイザー制度を設けている編集委員会もある

# 7. まとめ

- ①投稿しなければ、コトは始まらない
- ②掲載される論文を作るには、研究計画を十分に練ること  
初回投稿の水準を上げること
- ③査読は研究者仲間のボランティア  
年会費は同じなので、投稿したほうが「お得」
- ④仲間のために時間を削っている査読者のためにも、最低限のルール  
(投稿規程・要領)は守りましょう！(must)
- ⑤査読結果に対して、「折れない心」を作るには、言われ慣れること